

【事業協働運営先】 一般社団法人 千代田まちづくりプラットフォーム (まちプラ)メッセージ



まちプラ
ウェブサイト

私たち「一般社団法人千代田まちづくりプラットフォーム(まちプラ)」は、税金によらない市民提案型のまちづくり活動の助成事業である「千代田まちづくりサポート(まちサポ)」を、公益財団法人まちみらい千代田と協働で運営しています。この千代田の「まちサポ」を「地域コミュニティ」とともに発展させていきたいという思いから、活動グループのOB・OGや歴代の審査会委員が中心となって結成されたのが私たち「まちプラ」です(2016年6月設立)。

千代田の「まちサポ」では、これまでの助成グループに加え、応募グループも含めた実に多くの方々とのつながりが生まれてきました。こうした仲間とともに千代田のまちづくりをさらに進めていくことが「まちプラ」の役割です。まちサポの「サポート」をはじめてみませんか?一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。

問い合わせ [✉ chiyoda.machiplatform@gmail.com](mailto:chiyoda.machiplatform@gmail.com)

賛助会員一覧

法人会員

建設業	株式会社楠山設計 株式会社久保工 株式会社竹中工務店 一般社団法人東京都建築士事務所協会 千代田支部 株式会社ナカノフード建設 日産緑化株式会社 株式会社日昇緑化研究所 バシフィックコンサルタンツ株式会社	不動産業	エヌティティ都市開発株式会社 住友不動産株式会社 東京建物株式会社 プラットフォームサービス株式会社 三菱地所株式会社 安田不動産株式会社 株式会社i-tec24
製造業	KKテクノロジーズ株式会社 瀬味証券印刷株式会社 東京スクリーン株式会社 株式会社日精ビーアール 日本たばこ産業株式会社 東京支社 東京東部第三支店 ノーラエンジニアリング株式会社 株式会社ハセツバー技研 ハネクトーン早川株式会社 富士フィルムビジネスイノベーション株式会社 株式会社ムレコミュニケーションズ	サービス業	株式会社弘周舎 株式会社翔設計 株式会社アズーム
卸売・小売業	鈴木治作株式会社 鈴木株式会社 株式会社トキワ 株式会社ユニフォームネット	その他	株式会社イサミヤ 合同会社グローバル人材育成サポート 株式会社コンベンションリンケージ 株式会社住宅あんしん保証 株式会社TALO都市企画 一般社団法人千代田区観光協会 東洋美術印刷株式会社 NPO都市住宅とまちづくり研究会 株式会社バイオレンジャーズ ピヨンドネクストアカウンティング株式会社 株式会社フィレール 一般社団法人マンション管理組合支援センター 株式会社メジオ 株式会社リブリッジ 株式会社ワンサイン 株式会社And Technologies
情報通信業	株式会社メディアリンク	個人会員	池 俊郎 加藤 武夫 小林 誠 佐藤 直樹 積田 孝一 瀬川 昌輝 立山 光昭 戸田 豊重 堀部 剛正 ほか5名
金融業	株式会社きらぼし銀行 神田中央支店 興産信用金庫 西武信用金庫 神田支店 みずほ信託銀行株式会社	法人: 56 個人: 14 計: 70	
保険業	株式会社FEA ぜんち共済株式会社 日新火災海上保険株式会社 東京事業部 東京西支店	※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。	

千代田まちづくり サポート通信



まちサポ
特設サイト



第22回 千代田まちづくりサポート公開審査会 ～帰ってきたオンライン開催～

【目次】

- P1~2 事業・審査会概要
- P3~12 応募グループの発表概要、審査会委員のコメント
- P13 会長総評
- P14 まちプラからのお知らせ
- P15~16 公開審査会写真集
- P17~18 活動マップ



Chiyoda No Machisapo

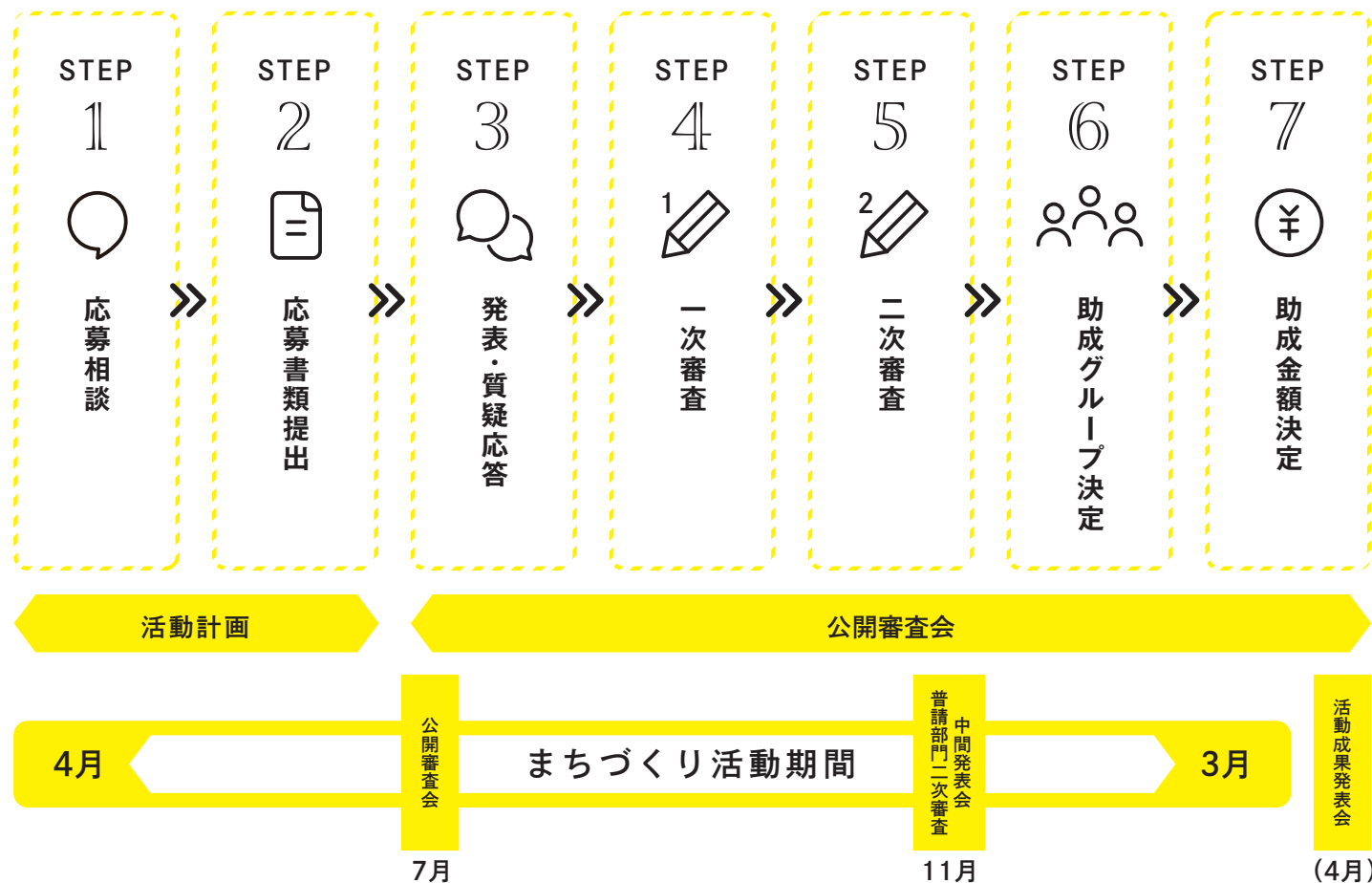
千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、千代田区内で自主的なまちづくり活動を行っているグループに対して、その活動経費の一部を助成する事業です。

本号では、令和4年7月30日(土)に開催した、第22回千代田まちづくりサポート公開審査会の様子をリアルに伝えます。

まちづくり活動が多様化する中、
 本年は「新たなコミュニティの形成をデザインする提案」
 「地域課題の解決に向けた提案」
 「地域資源の新たな魅力の発見につながるような提案」
 などのテーマでまちサポにアプローチがありました。

Process

公開審査会(一般部門)のプロセス



第22回千代田まちづくりサポート公開審査会

- 【開催日】** 令和4年7月30日(土)
- 【会場】** ちよだプラットフォームスクウェア5階
- 【内容】** 応募グループの活動発表とそれに対する質疑応答・審査を行い、助成グループと助成金額を決定しました。
 なお、審査会の様子は「YouTube」でライブ配信しました。

概要

【応募グループ数】 10グループ	【助成グループ数】 9グループ	【助成金額総額】 221万円
---------------------	--------------------	-------------------

【第22回の募集部門】

- はじめて部門(1年間のみ)一律5万円
はじめてばかりのまちづくり活動に対して助成します。
- 一般部門(最大3年間)5~50万円
継続して自立を目指すまちづくり活動に対して助成します。

【審査基準(一般部門)】

- 千代田区内における市民の主体的なまちづくり活動
- 地域に元気をもたらし、コミュニティの活性化に貢献する活動
- 住み・働き・学びやすく、魅力的な都市環境づくり活動
- まちづくりに対する新しい視点である活動

【審査の流れ(一般部門)】

- 発表・質疑応答
- 一次審査
発表と質疑応答を踏まえ、審査会委員が一次審査表に記載された各項目のいずれかに赤色・黄色・青色のシールを貼る。それに基づき、審査会委員が追加質疑を行う。
- 二次審査
各審査会委員が持っている4票を二次審査表「活動を支持するグループ」に緑色のシールを貼る。過半数(4票以上)の票を得たグループが助成対象となる。
- 助成金額の決定
助成対象となったグループの申請額を精査し、助成金額を決定する。

審査表

部門	回数	応募グループ名	一次審査表			二次審査表	申請額(万円)	助成額(万円)
			●活動内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える。	●活動内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい。	●意義ある活動内容だが、サポート助成の趣旨にはなじみにくいと考える。	●活動内容を支持する。		
一般	2	番町っこ倶楽部	●●●●●●●●	●		●●●●●●●●	50	49
	1	あるまっぶCHIYODA	●●●●●●●●	●		●●●●●●●●	50	49
	1	千代田プロレス&スポーツカルチャー推進委員会	●●●●●●●●	●●●		●●●●●●●●	50	48
	1	神田藍の会	●●●●●●●●			●●●●●●●●	50	50
	1	STAR FORCE		●●●●●●●●		●	50	0
はじめて	—	tea plant club					5	5
	—	COFFEE&ACOUSTIC CHIYODA					5	5
	—	No Borders ちよだ					5	5
	—	not ぼっち					5	5
	—	まちづくり・地域政策研究会					5	5

Program

- 10:00 開会
- 10:15 【一般部門】活動企画内容の発表①
発表・質疑応答(各グループ10分)
- 11:05 休憩
- 11:15 【はじめて部門】
活動企画内容の紹介(各グループ8分)
- 12:05 休憩
- 12:55 【一般部門】審査の主旨と解説
- 13:05 【一般部門】一次審査・追加質疑
- 14:15 【一般部門】二次審査・追加質疑、
助成グループ決定
- 15:00 まちプラからのお知らせ
- 15:20 【一般部門】助成金額の決定・発表
審査会委員講評
- 15:50 事務連絡
- 16:00 閉会

01

番町っこ倶楽部

馬と遊び、馬に学ぶ



〔代表者〕佐藤 洋平 〔活動メンバー〕4名 〔主な活動地域(場所)〕番町の庭

活動概要

番町地域を中心に地域コミュニティの形成に向けて、馬と子どもたちのふれあい体験イベント「馬と遊び、馬に学ぶ@番町の庭」を実施します。本年も馬のイベントを中心に、番町の畑や食卓等の開催の継続とこれまで積極的に行っていなかった会員増強プログラムを実施します。



発表概要

番町っこ倶楽部は、「番町の庭」でコミュニティ活動を行いたいということでグループを作りました。メインの活動は、馬を使ったイベントで毎年開催しています。これまでは、地域の企業等の協力で活動ができていました。昨年からはまちサポの助成金も活動の資金となっています。今年の活動ですが「馬と遊び、馬と学ぶ」というイベントを継続します。また、「番町の森」という広場の畑で夏野菜を栽培しています。まもなく収穫を予定しており、にんじんは馬に与えたいと考えています。これらの既存のイベントを続けていくことが活動の1つです。1年間さまざまな活動してわかったことは、会員がいかに重要かということです。区民館等を利用しようとする名簿がないと難しいと言われました。そのようなことから会員の拡大をしていこうと考えています。また、自立した活動には資金が必要ということで、クラウドファンディングでの資金調達を検討しています。そのほかに実施したいことは、食関連の企画の再開です。にんじんなどを栽培しているので、お立ち寄りいただければ、子どもたちが収穫していない場合は見ることができます。今年も1年間頑張って活動しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

審査会委員のコメント

これまでに6回ものイベントを開催されているのはその計画・実行力はもちろんですが、多くの近隣の方に支持されているからなのでしょう。参加した家族同士の交流や自分たちで育てたにんじんを馬にあげるのも子どもには貴重な体験です。今年は番町で「食」のイベントや会員の増強プログラムに取り組まれることで活動の幅が広がると思われます。会員制になると会費収入が見込め、さらにクラウドファンディングの活用も目指されているので活動の継続化が現実的です。ただ会員制となると現在の参加は未就学児から小学校低学年が中心であり、その子たちが参加するのが難しくなる高学年時をどうするのが課題でしょう。将来的に会員OBが大きくなって次はスタッフとして参加し、小さな子どもたちをお世話するなんてことになったらすてきですね。現在は番町の森で活動されていますが、場所さえあればどこでも活動できるということなので長く続く活動に期待したいと思います。



審査会委員
小野寺 健志

02

あるまっぷCHYODA

すれ違いぎわに“こんにちは”と挨拶ができるまちへ。



〔代表者〕山森 彩香 〔活動メンバー〕3名 〔主な活動地域(場所)〕九段北2～3丁目、九段南2～3丁目、三番町

活動概要

千代田区内にある飲食店や企業への取材、冊子での紹介を通して、区内に住む・働く・通う方々がより街に愛着をもって生活できるまちづくりに貢献します。共感してくださる方の縁を紡ぎ、冊子を通して千代田区の人と人をつなげます。また、SNSやホームページを活用し、さまざまな街の方とのコミュニケーションを重ねることで、よりよいまちづくりへつなげていきます。



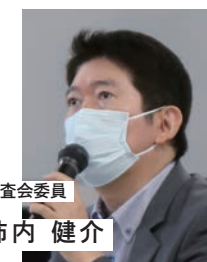
発表概要

学生時代から千代田区と縁があり、地域の人と仕事を通じて関わりを持つようになって「情報誌あるまっぷ(冊子)」を制作することになりました。取材先は、区内の飲食店がメインで、取材には学生が行くこともあります。冊子の配布場所は、区内の東京メトロ23駅のほか、千代田区観光協会や区内の飲食店です。情報発信のツールとして、インスタグラムを学生と協力しながら運用しています。また、動画の編集も行っています。千代田区社会福祉協議会とも連携しており、「ふれあいハローマルシェ」を共同で開催しました。このイベントには、地域の飲食店等が出店しました。出店者同士がコラボレーションをして、パン・野菜・お肉で「半蔵門バーガー」を作りました。2日間で約300人が来場しました。

〈発表時間を超過したため、審査会委員との質疑応答へ〉

審査会委員のコメント

冊子は地域に根ざした内容に特化し、スポンサーに頼らず、良いと思うものや伝えたいことにこだわって掲載されています。人々が気軽に挨拶できる関係を築けるようなまちにしたいという思いも共感できる。肩肘を張って地域のリーダーですというより、なんとなく知り合いが増えて、その結果共助の関係ができるような仕掛けになってくれることを期待している。事業としてのこれまでの法人の事業部門から一般社団法人への移行期間は任意団体として活動していくが、数年後は独り立ちできる体制を整えられるよう頑張ってください。



審査会委員
柿内 健介

Q & A

- Q 千代田区のまちの情報を発信することはとても大事なことだと思っている。冊子の発行回数が5回となっているが、1回発行するにあたり、2か月程度でまとめることができるのか。また、発行にあたって負担は大きくないのか。
- A 発行の流れとして、まずは飲食店等に連絡し、ヒアリングを1時間程度行います。また、写真も撮影します。その後、編集したものを取材先に確認し、修正を行います。ウェブサイトだとすぐに公開することはできるが、冊子なのでレイアウトが必要になります。最終的に必要なデータをすべて入稿し、1週間程度で発行となります。制作の過程で確認やレイアウト調整等で待つ時間もあるため、負担は大きくない。
- Q 冊子は単純にお店の紹介することや食べログの評価のようなものではなく、そのお店に集まる人やイベントなどがわかるようになっていると思う。
- A 冊子では縁があった人たちを紹介しています。不特定多数の人が出入りするお店の人たちは街の見守り役を担っており、そのような人たちに取材をしている。
- Q 活動をはじめたきっかけを教えてください。また、今後の活動メンバーをどのように考えているのか教えてください。
- A 活動をはじめたきっかけは、A3の1枚のマップのようなものから作りはじめて、取材も始めるようになって今の形になった。メインのメンバーは3人だが、学生メンバーが20人くらいいて、協力して冊子を発行している。専修大学や明治大学の学生が多い。
- Q 応募用紙にイベントの開催と記載されているが、その一方で収支計画にはその予算が計上されていない理由は何か。
- A イベントの参加費がかかる費用に充てている。収入・支出があるので、収支計画への記載漏れです。

03

千代田プロレス&スポーツカルチャー推進委員会

下校時間が早い水曜日の放課後に、小学生向けの格闘技&スポーツ塾を開講したい

【代表者】根岸 雅英 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】千代田区立スポーツセンター(調整中)

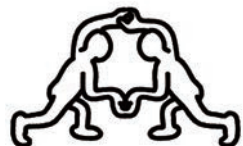


活動概要

授業が早く終わる水曜日の午後に、安価で子どもたちが楽しんで参加でき、運動能力も向上するスポーツ塾を開講します。

将来的に地域のニーズに応える形で、開催場所や日数を増やしてきくことで、地域コミュニティの活力向上と、子育てしやすい環境づくり、まちづくりに寄与していきたいと思っています。

また、ほかの習い事や教室にはない、現役のアスリート・ダンサー・格闘家らが講師を務めることで、子どもたちにプロの世界が遙か遠いものではなくて、自分たちができる身近な努力の延長線上にあるものなんだ、という感覚を持ってほしいと思っています。



発表概要

まちサポには、以前に神田プロレスという企画で関わり、その後は、千代田区の文化振興助成を受けて活動していました。神田明神の境内でプロレスを行い、また、子どもたちにスポーツ体験会を実施する中で、もっと深く千代田の子どもたちや地域と関わるにはどのようにしたらいいかのかを考えさせられました。私がプロレスラーというアスリートをたくさん知っているということから、ドッチビーや親子体操をする団体の人とグループを作りました。

千代田区の小学校は、水曜日の授業が半日で終わるため、共働きの世帯は預かり先を探したりしなければいけないのでとても大変です。そのような背景もあり、実験的に昨年11月に区立スポーツセンターで水曜日の午後に小学生向けのスポーツ塾を開催しました。このときは親子参加という形にして14人が参加しました。5週間に渡り5つの種目を行いました。プロレスラーと言ってもそれぞれバックボーンがあります。レスリングの選手、カポエラの選手、ヨガのインストラクターなどさまざまです。インストラクターそれぞれのバックボーンで体操や空手、カポエラなどを子どもたちに体験してもらいました。このような活動を毎週水曜日に子どもたちの受け入れ先として、僕たちが実施したいと思います。また、参加者には500円程度で安価に利用してほしいと思っています。

審査会委員のコメント

子どもが楽しく体を動かせる場所や機会が少なくなっている現代において、大変有意義な活動だと思いました。また、子どもにとっては、いろいろな大人と触れ合い交流する機会にもなりますね。1年間を通して、さまざまな子どもたちが参加し、楽しんでくれることを期待します。そしてその体験した子どもの声も発信していただければと思います。将来的には、小学校と連携するなどして、継続的に活動が展開できるよう、そのきっかけをつかむことができる1年になることも期待しています。



審査会副会長
後藤 智香子



Q & A

Q 千代田独自のスポーツ体験とはどのようなものでしょうか。
A <首のストレッチを実演>

Q メンバー4人のうち、3人はインストラクターで事務的なことは代表が行うと思われる。収支計画の中で受付業務に謝金を計上しているが、水曜日以外も開催するとこの部分の費用が大きくなるのが想定される。そのことを今後はどのようにしていくのか。
A 実験的に開催したときは、九段生涯学習館の市民講座だったこともあり、会場費等の費用はかからなかった。このスポーツセンターは、柔道場が2面あって安全に開催できるが、1回あたり9,000円の使用料がかかってしまう。それに子どもたちの参加費を充ててしまうと1回あたりの参加費が高額になってしまい、それは僕たちの思いとは違うことになる。プロの講師の方に無償でお願いすることも違うし、今回はその部分に助成金を使って活動をスタートしたいと思っている。将来的には、このイベントの認知度を高めて参加者が増えてくることにより、助成金を充てていた費用を自己資金で賄っていくことができるのではないかと考え、応募用紙にはその展望を記載している。

Q 区内に8校ある区立小学校のスペースを借りることで会場費が発生しないし、子どもたちもその方が参加しやすいと思う。うまく学校と連携したほうが活動しやすいと思う。講師の謝金は必要経費なので、それ以外の経費を抑える工夫をすれば運営が楽になると思う。
A マット運動や器械体操ができる公共の施設が少ない。そのような施設を教えてもらえると助かる。

Q 収支計画に記載している預かり保育の必要性を教えてください。
A このような活動を行うにあたり、例えば兄弟で参加し、その弟が小さかった場合に預かり保育が必要となるケースが多い。そのための費用として予算を計上した。

04

神田藍の会

神田を藍(愛)でいっぱい
~Ai Love Kanda~

【代表者】伊藤 純一 【活動メンバー】6名 【主な活動地域(場所)】神田地域



活動概要

藍という植物を育てることで、コロナ禍の心身のストレスを軽減するだけでなく、自宅と街で1年かけて栽培することで、子どもから高齢者まで学び、育て、楽しむと同時に、日常会話やイベントで顔を合わせるきっかけにします。



発表概要

「神田を藍(愛)でいっぱい」というテーマで活動しています。これは「住む人・働く人・神田を愛する人」がともに力を合わせて神田をより楽しく、そして安心して暮らせるように一緒に育てていくためのプロジェクトです。

ここにある藍は、東松下町会で子どもたちに配ってもらい、そして育ててもらった藍です。その昔、藍は武士の着用に使われており、勝ち色としても大切にされていました。藍は染物だけではなく、抗酸化作用があるので、食べることができるほか、薬草としても使われ、私たちの文化や歴史に役に立っている植物です。神田で藍を育てるきっかけになったのは、神田には今も存在する神田紺屋町という歴史の古い街があるからです。そこに全国から藍が集められ、さまざまな文化が形成された歴史があります。新しい住民やマンションが増え、新旧住民の交流が難しい中、この藍という植物と一緒に育てることで「心身のストレスを軽減」「育てる楽しみやおもしろさ」を分かち合い、会話をするきっかけとなる活動にしたいと思っています。

昨年の3月にトライアルで藍を育て始めました。また、「藍染川の旧河道のまち歩き」「種の奉納(神田明神)」「染体験」をしました。現在は企業の屋上やベランダ、家庭でも育てています。多くの人がいるいろいろな場所で藍を育てることができるよう私たちが活動したいと考えています。

審査会委員のコメント

まず、活動テーマである「神田を藍(愛)でいっぱい ~Ai Love Kanda~」の言葉に心を打たれました。千代田区に限らず、多世代交流、街の緑化、防災などの課題は多く、藍を栽培することで日常会話のきっかけを生み出し、藍を結び目としたイベントにより、街の課題を共有する場を設け、さまざまな課題への意識向上が取り組めると感じました。

比較的、藍は強い植物であるとのことですが、栽培の成功や失敗を通じ、街中の環境に向き合うことは非常に貴重な体験になります。神田の名産として「神田藍(愛)ブランド」商品が流通することを心待ちにしております。神田紺屋町に当金庫の本店もあり、栽培サポーターと一緒に取り組みをさせていただきます。



審査会委員
吉田 渉



Q & A

Q 藍を育てるための場所をどのように確保していくのか。また、藍を発酵させて、貯蔵する場所は、それなりの面積が必要になると思うが、どのような工夫を考えているのか。
A 場所については、屋上菜園のプロデュースや栽培をお手伝いする仕事をしていることから、神田には藍を育てるビルが多くあることを把握している。ビル以外でも自宅前の小スペースでの栽培は可能です。ここに染めたものが1つあるが、発酵させて藍の紺色を出すために、葉を取って砕いて染めただけのものです。30分程度でできる簡単なものなので、発酵させるスペースがなくてもできるものとなっている。

Q 活動を始めたきっかけを教えてください。
A もともと屋上菜園で子育て支援するために野菜を作っていた。メンバーでさまざまなことを相談する中、藍を育てようということになり、のちに神田紺屋町があることも知った。また、調べていくうちに食べられるということもわかって、神田の名産品になるのではないかと考えた。

Q どのようなつながりで構成されたメンバーなのかを教えてください。町会や企業の協力を得られているようなのでとても期待している。
A メンバーは在住者と在勤者で構成されている。

Q 活動テーマがキャッチーで魅力的だと思った。応募用紙に今年の12月に千代田区の団体と交流予定と記載されているが、それはどのような団体なのか。
A まだ具体的な団体は決まっていない。昨年からのトライアルで活動を開始し、10団体くらいに藍を育ててもらっている。現在は興味を持っていただいている学校などもある。藍を媒介として、興味を持っていただける団体が集まるきっかけとなると考えている。

05 STAR FORCE

スターウォーズの世界を現実に！



【代表者】日野 陽平 【活動メンバー】60名 【主な活動地域(場所)】秋葉原駅周辺

活動概要

映画「スターウォーズ」の世界を現実に！ということで、さまざまな事業や美化活動や子ども支援活動、災害時のボランティア活動を行なっています。

ここ千代田の地からスターウォーズと言えば千代田という文化を作っているのではないかと考えています。

アメリカ本国の団体501大隊のような大規模な公認団体を目指します。

また、千代田区秋葉原は昔からコスプレの文化や世界中の方々が観光に訪れる街でもあり、その一助になれば幸いです。



発表概要

それではSTAR FORCEのプレゼンをします。さっそくですが、本日はスペシャルゲストが来てくれました。

<ダースベイダー、ストームトルーパー、ジャワが来場>

今日はダースベイダーさんたちに来ていただきました。それでは1分動画を流させていただきます。ご覧ください。

<活動の紹介動画を映写>

STAR FORCEは「スターウォーズの世界を現実に！」をテーマにさまざまな事業や社会貢献活動としての美化活動や子ども支援活動、災害時の活動支援などを行っています。公式のディズニーから招待があり、イベントに参加しました。また、千代田区社会福祉協議会の公式ボランティア団体登録を受けました。そのようなこともあり、この千代田の地からスターウォーズと言えば千代田という文化を作っているのではないかと考えています。そして、アメリカ本国のスターウォーズファン団体の第501大隊のような大規模な公認団体を目指しています。

そのほかにスターウォーズのファンが集まれるお店を作ることも計画しており、そこからジョージ・ルーカス監督が日本を代表する世界的映画監督の黒澤明監督にインスパイアされたように自分たちも新しいものをここ千代田から世界に向けて生み出していきたいと考えています。子どもから高齢の方まで国内外にメンバーが多数在籍しています。今後たくさんのファンが訪れ、コロナ前の活気あるまちづくりの一助になればいいと思っています。

審査会委員のコメント

グループ設立の経緯や今までの活動実績についてお話を伺い、団体としてすでに確立されていて、グループ代表が説明されたまっすぐな活動展望が印象的でした。

事務局本部が千代田区にあるとのこと、さまざまなカルチャーが発展している「秋葉原の街」へ美化活動を中心にイベントを実施しつつ、災害時活動の普及にもつなげていく展望は、非常に興味を持ちました。

審査会では、グループ活動を行うにあたり、メンバーの招集は必要ではありませんが、「スターウォーズ」と「コスプレ」にスポットがあたり過ぎている印象がありました。千代田区内のイベントや関係団体との接点を作り、千代田区のまち・環境づくりに貢献する活動として、改めて発表いただける日を楽しみにしています。



審査会委員
吉田 渉

06 tea plant club

メイドイン千代田の紅茶づくりプロジェクト



by tea plant club

【代表者】加藤 幸子 【活動メンバー】3名 【主な活動地域(場所)】四番町周辺

活動概要

屋上緑化や遊休スペースの利用などを取り入れた、茶の木栽培、茶摘みを行える環境を実現します。

①アクティビティ(茶摘み体験)を兼ねた健康増進や地域コミュニティの活性化②子どもの茶摘み体験など教育上の効果③千代田区の桜を加工使用した「千代田区ブランドの紅茶」など特産品の商品化による外国人観光客へのアピールとブランディングなど、活動するにあたって、さまざまなメリットが考えられます。



発表概要

tea plant clubは、私たちが暮らす空間でお茶を栽培することを目指しています。それにより「茶摘み体験を通じた地域コミュニティの活性化」や「子どもの茶摘み体験による教育上の効果」につながると考えています。最終的には千代田区のさくらを加工した「紅茶の商品化」にも段階的に取り組みたいと思っています。お茶の木は、東京農業大学より提供してもらう予定です。栽培する場所は、マンションの共用部分で話を進めています。また、そのほかの栽培場所については広く協力を求めていきます。鉢はメリットの多い不織布製を用います。

私は地紅茶学会という団体に愛好家として所属しています。地紅茶学会には生産者や研究者が数多く在籍しているため、紅茶の栽培・管理・商品加工について専門的な立場から助言を求めることができます。今後は、お茶の木を千代田区で育成し、茶摘みができる状態に育てるところからスタートします。

審査会委員のコメント

紅茶といえば品があつておしゃれなイメージだが、大都市の環境対策の一助になると思うと見方が変わってくる。ビルに囲まれた千代田区の屋上緑化や、それを生かした青少年教育などお茶の栽培効果は広がり期待できる。実際の生産量の確保は工夫を要するが、まずはできるところから始めて、将来的には紅茶の販売につなげることができたらおもしろい。結果的に千代田区のブランディングにも貢献する可能性も含めとても興味深い。

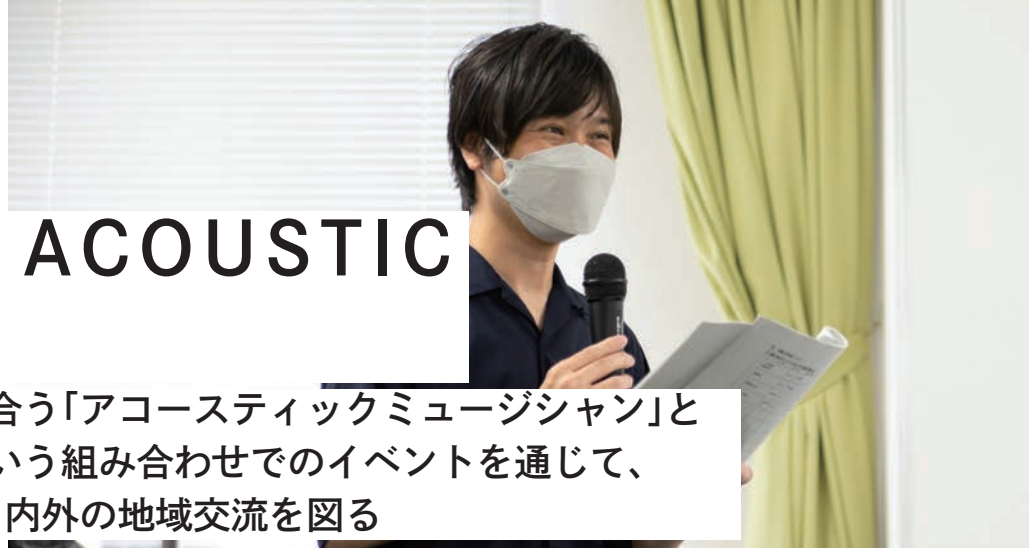


審査会委員
柿内 健介

07 COFFEE & ACOUSTIC CHIYODA

コーヒーや紅茶などに合う「アコースティックミュージシャン」と「歴史あるスペース」という組み合わせでのイベントを通じて、千代田の魅力を発信し、内外の地域交流を図る

【代表者】 齋藤 哲也 【活動メンバー】 4名 【主な活動地域(場所)】 神田地域、九段南1丁目、北の丸公園



活動概要

「神田エリアの純喫茶」や「海老原商店、優美堂など歴史的な建築物」、「アーツ千代田3331などのアートギャラリー」のスペースで、アコースティック&フォークジャンルの「心地よい音楽を奏でるミュージシャン」×「千代田の風情溢れる歴史の感じられるスペース」という組み合わせのイベントを開催します。



発表概要

私は外神田に在住しており、そこで東京ビエンナーレやJAZZ AUDITORIAなどの音楽、アートイベントなどに家族を連れて参加しました。その中で千代田区には歴史ある場所がたくさんあるということに気づきました。本業は渋谷区でカフェ運営・音楽ライブの制作などを行っており、その仕事の経験を生かして、千代田区の魅力を発信し、内外の地域交流が図れるようなイベントを開催したいと考え、はじめて部門に応募しました。

具体的には、これまで千代田にありそうでなかったコーヒーや紅茶などに合うアコースティックミュージシャン、心地よい音楽を奏でるアフタヌーンティーに合うようなアコースティックミュージシャンと千代田区の風情あふれるような歴史を感じることのできるスペースという組み合わせで、休日を過ごせるようなイベントを開催したいと思います。そのイベントを通じて、千代田区の魅力を内外に発信していきたいと考えています。

審査会委員のコメント

休日のゆったりとしたアフタヌーンティータイムを、千代田区内の歴史ある魅力的な建造物のなかで、アコースティックなミュージシャンの心地よい演奏とともに過ごせる、こころ癒やされる企画です。

まずはご家族で始めたいとお話がありました。大切なのはヨコのつながりです。親子で楽しめるような工夫をこらして、家族ぐるみでつながれるゆるやかな地域交流の場としても実践していただけたらと感じます。また、ドリンクのサブについて、「まちサポ」にエントリーしたほかのグループと連携してみるなど、継続性をもった活動にしていけるよう期待します。



審査会委員
小玉 伸一



Q & A

Q 現在の活動メンバーは家族だと思われるが、今後活動メンバーを広げていく工夫を教えてください。

A まずはイベントを開催して、その参加者の中から活動に賛同してくれるような人をメンバーに加えていきたいと思っている。

Q 活動メンバーの家族に注目しました。家族がいることで家族ぐるみで楽しめるようなイベントになりそうだと感じた。今後どのような展望を描いているのか。

A 家族同士が交流できるようなワークショップの実施も検討していきたい。

Q 収支計画のミュージシャンへの謝金や会場使用料は1回分のイベントの費用ということなのか。その場合、イベント以外には何か活動を行うのか。

A 1回分のイベントの費用になる。会場は海老原商店で、その利用料金を収支計画へ反映した。具体的なことは決めていないが、継続的に四季のタイミングで何かを実施していきたいと考えている。

Q ドリンクの提供は行うのか。

A 近隣の喫茶店やカフェなどに声がけし、コーヒーの店をお願いしたいと考えている。

Q 活動内容から、ほかの応募グループと連携ができそうなイメージを持った。横のつながりを大切に活動してください。

A ありがとうございます。

08 No Bordersちよだ

古い／旧いものや新しいものが共存した街の中で、様々な価値観を心地よく共有し、心身健康で美しくあることのできる状態、場を千代田区の中で作る

【代表者】 近藤 志穂 【活動メンバー】 4名 【主な活動地域(場所)】 番町、麴町、神田エリア



活動概要

歴史ある建造物で食やアートを楽しむイベントを行う。また、その様子をSNS等で発信することで、歴史ある千代田区の魅力や、五感に向き合いそれらを共有する時間の豊かさを伝えていきます。



発表概要

私たちは、古いものと新しいものがうまく共存した街の中で、いろいろな立場の人が心地よく意見を出し、それが反映されて心身健康で美しくあることのできる街を目指したいと考えています。No Borders ちよだは、昨年度千代田区が主催した「ちよだの女性が未来をつくる！フューチャーセッション」に参加したグループの1つです。メンバーは「空き家」をキーワードに集まりました。このフューチャーセッションには、千代田区在住の31人の女性が参加しました。

千代田区には古いすてきな建物が残されています。このような建物が壊されてなくなる前に何かに生かせないかということと、「空き家」というキーワードについてグループで考えました。そのうち、空き家というのはあくまでも象徴であって、皇居や多くの史跡がある千代田区で歴史のある古いものをうまく残したいと思うようになりました。また、心地よく住める街を実現するためにはどうしたらよいかということも考えました。どうしても千代田区には、高所得者の方が多いイメージがあります。年齢・性別・職業・収入・国籍などの有無に関わらず、心地よく住み続けられる街であるべきだろうという考えから、私たちのグループ名をNo Bordersと名付けました。そして、千代田区をより人の集まる魅力のある区にするための企画を考えることになりました。具体的には、歴史ある建造物で女性が発信する安全な食やアートを楽しむイベントです。そのイベントの様子は、SNSで発信します。SNSを活用した情報発信は、いずれは英語でも行いたいと考えています。

歴史ある千代田の魅力や五感に向き合い共有する時間の豊かさを伝えるというイベントにはいろいろな人に参加してもらいたいと思っています。現在のメンバーは4人ですが、フューチャーセッションで出会ったほかのグループとも共同しながら、年内に2回程度のイベントを開催したいと考えています。

審査会委員のコメント

歴史ある建造物が有効活用されていない(場合によっては取り壊される)、また多様な価値観を心地よく共有できる場がないという、現代の都市が抱える2つの問題に向き合うすばらしい取り組みだと思います。

初年度はまず、イベントを2回程度行うとのことですが、その試行を踏まえて活動を継続し、「No Borders」にふさわしい、多様な皆さんのための多様な場が少しでも多く生まれることを期待します。



審査会委員
三友 奈々

09

not ぼっち

「好きなこと・得意なこと」でゆるやかに地域とつながる
～最初の一步を見つけよう

私たちが「ゆるやかに」始めようとしていること

見つけよう



自分の好きなこと・得意なことに
気がつき何ができるかを考える
ワークショップ
(今年度取り組み)

集まろう



特技のある人を
「地域サポーター(仮)」
としてリスト化
(今年度取り組み)

やってみよう



特技を生かした
企画と一緒に考え、実行

【代表者】 秦 笑子 【活動メンバー】 5名 【主な活動地域(場所)】 番町、麴町、神田エリア

活動概要

2021年開催の「ちよだの女性が未来をつくる！
フューチャーセッション」をきっかけに、「地域でゆるやかにつながり孤独のない社会の実現」を目指して活動を始めました。参加者が自らの好きなこと/得意なことを認め合い、地域のために何ができるか、「最初の小さな一歩」をともに考えるワークショップを無料で開催します。渋谷区の「特技ボランティア」なども参考に、区民の技能と地域の困りごとのマッチングサービスとして成長することを目指します。



※写真はイメージです

発表概要

私たちのグループは全員女性で5人のメンバーによって構成されています。孤独がなく緩やかにつながれる社会ということを目指して活動したいと思えます。私たちがNo Bordersさんと同じく「ちよだの女性が未来をつくる！フューチャーセッション」に参加したチームです。そこでの最終発表では、つながりを生み出すために「地域でのマッチングサービス」とイベント情報が区民全員には伝わらないことから「情報の一元化」を提案しました。この2つは、体制が充実しないと難しく、まずは私たちができることを少しずつ始めようということによって現在の活動に至っています。

発表資料にありますが、孤独は現在社会全体の問題として捉えられています。内閣府の対策資料にもあるように、人と人とのつながりをどうやって維持していくのかということに対して、私たちが微力ながら何か行いたいということによって活動を始めたところです。

千代田区のホームページに区民のアンケート調査が掲載されています。地域との関わりを区民の約8割は望ましいことだと思われているにも関わらず、実際に地域活動や団体に参加している人は半数にも満たないという調査結果でした。その理由は、時間的に余裕がないということ、また、地域活動の情報が広報紙しかないからということです。このようなことから、私たちは緩やかにつながるをテーマに活動を始めようと思えました。

私たちが今年度緩やかに始めたいと思っていることは、自分の特技や好きなことを認識できるようなワークショップです。特技がある人たちをリスト化して、いずれはその人たちが主役となって企画を立案し、イベントを開催するという流れを作りたいと思っています。今年度はこのワークショップとそこに集まった人がつながり続けることができるような企画を実践したいと思います。

審査会委員のコメント

フューチャーセッションでの出会いをきっかけに、活動を始めたとのこと、すばらしいですね！みなさんと同じように、地域のつながりを持ちたいし、伝統的な組織は大事だと思うけれど、参加しづらい…と感じる若い世代は多いと思います。ぜひそういった方々に届くような場をつくっていただき、さまざまな人々の声を引き出していただければと思います。今年度はまさに「最初の一步」となるような取り組みを期待しています！ぜひ楽しく活動を進めてください。



審査会副会長
後藤 智香子

10

まちづくり・地域政策研究会

千代田区の街並みから歴史を探る！



【代表者】 井澤 和貴 【活動メンバー】 6名 【主な活動地域(場所)】 千代田区内全域

活動概要

当団体は、より良い地域コミュニティやまちづくりの在り方などについて調査・研究を行なっています。その一環として、「千代田区の街並みから歴史を探る」をテーマとし、さらに令和4年度は「坂道」に焦点を当てて、調査を行ないます。この調査で得た情報は、ホームページやフリーペーパーなどによって発信していきます。



発表概要

千代田区の町並みから歴史を探るということが私たちの活動テーマです。私たちはまちづくりを学ぶ大学院の修生で構成されており、法政大学大学院のメンバーが今中心となっています。その大学院で学んだことをこれからも続けていきたい、また、まちづくりを学んでいるので、コミュニティについて考えていきたいと思っています。今年度から、さらに活動を発展させるために千代田まちづくりサポートに応募をしました。

私たちは、よりよい地域コミュニティやまちづくりのあり方について研究を行い、その一環としては何ができるかを考えました。大学のある千代田区は、江戸城があったことから、歴史的にも文化的にも重要なエリアです。千代田区に存在する歴史に関連した地域の新たな魅力となる可能性があるスポットを見だし、その情報を発信する目的で活動を始めています。

昨年は大学院の修生生だけでまち歩きを行いました。そのほかにホームページを手探りで作成しました。そこには、まち歩きの内容をA3両面1枚にまとめて掲載しています。

今年度は、まち歩きを1回行い、ホームページの掲載内容を充実させて、冊子も作成したいと考えています。また、展示会を開催し、そこで区民へ役立つ情報を伝え、交流を図りたいと思います。今回は坂道をテーマにしており、坂道の魅力・由来など、歴史的な見方や文化的な要素を踏まえながら地域の魅力を発信します。さらに、冊子には休憩スポットを掲載し、歴史的な情報に加え、区民に役立つ情報も発信します。

審査会委員のコメント

歴史の魅力に新たな視点で切り込み、まち歩き情報誌とITによるハイブリッド情報を駆使して、街を身近に感じる工夫に親しみを感ずります。歴史を通じて何を学ぶことができるのか、現在の姿の背景に何があったのかという解説はとても関心をそそられます。展示会などの場における地域住民との交流を通じて次の一手をどのように構想されるのか、とても期待しています。まず坂道から、これからのまちづくりへのヒントとなる読みときを楽しみにしています。



審査会会長
奥村 玄

会長総評

3年ぶりにまちサポにリアルな公開審査が帰ってきました。ハイブリッドで進められた審査会ですが、活気ある空気みなさんワクワクして参加されたことと思います。多くの方々オンラインで視聴され、ハイブリッドの良さも改めて分かりました。人が集まる活動に制約がかかる中で、応募グループも大きく入れ替わりましたので、今回発表いただいた一般部門の各グループにコメントを寄せたいと思います。

番町っこ倶楽部

都会で生き物とのふれあいは貴重な体験だと強く思います。地域コミュニティの活性化を目指し、さまざまなグループから連携の声がかかることも活動の魅力が要因と考えます。2年目を迎え、乗馬体験の継続性を高めるためには、資金調達と運営者の充実が課題と言えましょう。寄付をはじめ、適正価格調査などを経て運営協力費などを財源とする模索、乗馬会と同時に写真や絵画、作文のコンテストを開催するなど、さまざまな参加の工夫も考えられます。一緒にやってみたくて思っている方々にみなさんの声が届くように期待しています。

あるまっぶ CHIYODA

冊子には、まちに所縁のある方の記事や顔の見えるお店紹介など、一味も二味も違う内容にこだわりが伺えます。発表の中で「当人が意識していない“まちの見守り役”」という言葉にひかれました。そこを深掘りした取材内容、さらに、お店とスタッフのことをお店で語るトークイベントなど、新たな接点を作り出すこともおもしろいかもしれません。

千代田プロレス&スポーツカルチャー推進委員会

プロレスからスポーツ塾へ、イベントから文化へと進化し続けるグループとして、これから活動を始めるグループの参考にもなると思います。友達づくりや子育て支援など、さまざまな課題を視野に入れながら活動がどのように膨らんでいくのか楽しみです。これまでの経験を生かし、試行錯誤から一歩進み、スタートから軌道に乗せるまでの運営戦略を意識しながら、スポーツを通じた地域のコミュニティが育まれることを期待しています。

神田藍の会

ミツバチもあるけれど、藍もありますよ！というメッセージを感じました。栽培した藍を持ち寄り、火を使わずに数時間で染めることができる手軽さは参加のハードルがグンと低くな

ります。そうすると、共同栽培や染めをはじめとする「集まったの活動」がキモと思われれます。暮らし全体に広がっていく可能性も感じます。これからどのようなコミュニティが培われるのか、とても楽しみです。

STAR FORCE

グローバルな強みを発揮するとともにローカルな強み、すなわち顔の見える活動として千代田ならではのスターフォースを創り上げてくださることをお願いします。そこに、ワクワクするような未知の世界が広がっているように思えます。幅広い世代に熱烈なファンがいますので、多様な世代を巻き込み取り組みも期待できそうです。

今回の応募グループには、区の新たな取り組みである「ちよだの女性が未来をつくる！フューチャーセッション」への参加がきっかけとなり、まちづくりサポートに応募されたグループもあります。まちづくりの間口がグンと広がったことはとても素晴らしいことです。

また、まちづくり活動テーマの幅広さを改めて感じたことも大きな特色と思いました。

都市における「農」を通じた新たなコミュニティのあり方の提案、家族ぐるみでプロジェクトの中心となり仲間づくりを進める活動、誰でも気軽に交流できる場づくりやそれぞれの特技をまちづくり活動につなげていく、すなわち一人一人を大切にするという理念、IT化が進む中で情報誌という紙媒体にこだわりハイブリッドな情報発信のメリットを生かしたコミュニティづくり、まちサポならではの柔軟な発想と、まちづくりの枠組みがどんどん広がっていくことに多くの学びがありました。

まちづくりは、試行錯誤の繰り返しだと思います。最初にイメージしていたことが、多くの人に出会うことで膨らんだり思わぬ変化を迎えたり、思わぬハードルやうれしいハプニングもたくさんあります。たくさんのドアをノックすることで仲間が少しずつ増え、できることが徐々に広がっていくことを楽しみに活動してください。

審査会会長 奥村 玄



まちプラからのお知らせ

Slack「千代田のまちサポ」がはじまります！

Slackとは？

- (1) 話題を分ける
 - チャンネルによって話題を分けてメッセージができる。
 - チャンネルにあるコンテンツはすべて検索可能。
- (2) スレッドで返信ができる
 - メッセージに対して、スレッドで返信をすることができる。
- (3) ファイルの共有
 - 大きいサイズのファイルも共有可能。



参加資格…千代田まちづくりサポートに関わる皆さん

- 助成グループ → 1アカウント以上
- 今回は助成を受けられなかったグループ → 任意
- OB・OGグループ
- (一社)千代田まちづくりプラットフォーム
- 普請部門 助成グループ
- 審査会委員
- まちづくりサポート事務局
など、千代田のまちサポに関わる方



Slack「千代田のまちサポ」について

- それぞれの地域での活動や、イベントにあたっての相談などを交わしながら、千代田でまちづくりに関わる仲間としてつながれる場になれば幸いです。
- チャンネル構成などは、みなさんの意見を取り入れて柔軟に運営していきます。ぜひご意見をお寄せください。
- 不明点などは、info@machiplat.or.jp までご連絡ください。

お気軽にお問い合わせください！

一般社団法人 千代田まちづくりプラットフォーム

✉ info@machiplat.or.jp



Map 活動マップ



04
神田藍の会
(神田地域)

07
COFFEE & ACOUSTIC
CHIYODA
(神田地域、九段南1丁目、北の丸公園)



02
あるまっぷCHIYODA
(九段北2~3丁目、九段南2~3丁目、三番町)

05
STAR FORCE
(秋葉原駅周辺)



06
tea plant club
(四番町周辺)

03
千代田プロレス &
スポーツカルチャー
推進委員会
(千代田区立スポーツセンター(調整中))



01
番町っこ倶楽部
(番町の庭、番町の森)

09
not ぼっち
(番町、麴町、神田エリア)

私たちが「ゆるやかに」始めようとしていること

見つけよう	集まろう	やってみよう
自分の好きなこと・得意なことに 気が付けるかを考える ワークショップ (今年度取り組み)	特技のある人を 「地域サポーター(仮)」 としてリスト化 (今年度取り組み)	特技を生かした 企画を一緒に考え、実行



10
まちづくり地域政策研究会
(千代田区内全域)

08
No Borders ちよだ
(番町、麴町、神田エリア)

